

# 第119回 中部圏知事会議 議事録

日 時 令和5年10月18日(水) 13:30~16:45

場 所 ダイヤモンド滋賀2階「バンケットホール」

## 【開会】

### (司会)

只今から、第119回中部圏知事会議を開催いたします。

会議に先立ちまして、報道関係者の皆様をお願いいたします。知事席周辺での撮影は座長が選出されるまでの間をお願いいたします。座長選出以降は、報道席からをお願いいたします。

本日の出席者でございますが、新田富山県知事、馳石川県知事、古田岐阜県知事、川勝静岡県知事、大村愛知県知事、一見三重県知事、三日月滋賀県知事、河村名古屋市長、中村福井県副知事、関長野県副知事の御出席となっております。

それでは開会にあたり、開催県である滋賀県の三日月知事から御挨拶をお願いいたします。

### (三日月滋賀県知事)

第119回の中部圏知事会議をここ、滋賀県甲賀市で開催していただくことになりました。心から歓迎を申し上げます。また日頃、それぞれのお立場で御奮闘いただいていることに心から誠意を申し上げたいと思います。

今、甲賀市長から熱く語っていただいたとおりでございますが、私ども、ここからは少し離れておりますけれども、日本で一番大きな湖、そして毎日1500万人の方々飲み水に使われている水を湛えております琵琶湖をお預かりしておりますが、この地域はちょうど琵琶湖の源流にあたりますし、古くは、ちょうどこの辺に琵琶湖があったのではないかと、伊勢湾からずっと移動して来て、琵琶湖があった地域とも言われておりますので、豊かな土やそして水に恵まれた山、森の資源豊富な場所でもあります。この地域で中部圏、そして日本の未来について語り合うことができることを大変光栄に思います。

また午前中は、甲賀市の地場産業の一つであります信楽焼につきまして、その製造技術を上げること、また担い手を育成する取組などについて御視察をいただくと同時に、皆様方にも絵付けの体験などをしていただくことによって、モノ作り、ヒト作りだけではなく、コト作りを今、挑戦していることについて御確認いただいたところでございます。

今日は後程、いよいよ迫ってきました2025年大阪・関西万博。いかに機運を醸成していくのかということでもありますとか、当方で御提案し、用意をさせていただきました、今、大きな課題であります、地域の公共交通をいかに守り、活性化していくのかということなどにつきまして、国への緊急提案を含めて御議論いただく予定になっております。

実りある有意義な時間でありませう、ホスト県といたしまして、最大限尽くして参る所存でございますので、どうぞ皆様方、御協力、御指導いただきますようお願い申し上げます。冒頭、簡単ではございますけれども、歓迎の御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。続きまして、中部圏知事会会長の 大村愛知県知事から御挨拶申し上げます。

(大村愛知県知事)

皆さんこんにちは、愛知県知事の大村です。それでは、私からも御挨拶申し上げます。

本日は三日月知事はじめ、滋賀県の皆様にこの会場の準備と行き届いたおもてなしでお迎えいただきました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

そして午前中は、信楽窯業技術試験場と陶芸の森に御案内をいただきました。日本六古窯の一つである信楽焼の絵付けも体験させていただきました。六古窯といいますと、私どもの愛知県にも瀬戸、常滑と二つございます。また福井県にも越前焼がございます。更に焼物と言えば、岐阜県さんには美濃焼、三重県さんには萬古焼、石川県さんには九谷焼と焼物の産地がこの圏内ずらっとありますので、またそうした面でも、日本の誇る焼物についても中部圏で連携して盛り上げていければと思っておりますのでよろしく願いいたします。

また先日、北陸新幹線の金沢敦賀間開業、いよいよ来年3月と発表され、もう試験走行もされたということでございます。金沢、福井、敦賀の開業は中部圏の社会インフラ整備にとって大変大きな前進だと思っております。中部圏全体でしっかりと盛り上げていければと思っております。なお、同じ3月16日には私どものジブリパーク、「魔女の谷」開園の時期がちょうど16日でございます。いよいよ一番大きな2.9ヘクタールの本当の遊園地っぽい所がドカンと開園しますので、キャパが今の倍になりますので、中部圏の皆さんとしっかりと連携して盛り上げていければと思っております。

もう一つ申し上げますが、実はこの9月、10月、中国浙江省杭州におきましてアジア大会が行われておりまして、先般、9月23日開会式、10月8日閉会式でありましたが、閉会式に私も参りまして次回開催都市として旗をもらってくるというフラッグハンドオーバーセレモニーをやって、いただいてまいりました。1年ゼロコロナで延期になっておりますので、私ども2026年、3年後、アジア大会とパラ大会でございまして、隣県の各県の皆様にもいくつかの会場をお願いしております。しっかりと盛り上げていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

さて、本日の会議は大阪・関西万博に向けての機運醸成、それから滋賀県さんから御提案いただいた地域公共交通の維持・活性化の意見交換を行わせていただくこととなっております。大阪・関西万博につきましては、万博協会、内閣官房、大阪府の万博推進局の皆さんにお越しいただいておりますので後程御説明いただきます。中部圏としても、しっかりとこの万博を盛り上げていければと思っております。また地域公共交通の維持・活性化については、今年4月に地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正されまして、各地域での持続可能な交通ネットワークの維持・活性化が重要なテーマとなっております。皆様から取組事例などを御紹介いただき、情報共有、そして意見交換を行いたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。限られた時間ではありますけれども、本日の会議が実りの多いものになりますように何卒よろしくお

願ひ申し上げ御挨拶といたします。

(司会)

ありがとうございます。それでは早速でございますが会議を進めて参りたいと存じます。

会議の座長につきましては、慣例により開催県の知事にお務めいただくこととなっておりますので、滋賀県知事をお願いいたしたいと存じます。

只今、座長の札を座長の元に置かせていただく間に報道関係者の皆様へ申し上げます。これ以降の撮影につきましては、報道席からお願いいたします。

そうしましたら三日月知事、よろしくをお願いいたします。

(三日月滋賀県知事)

それでは皆さんどうぞよろしくをお願いいたします。

記者会見等の都合もございまして、会議全体の終了予定を15時45分とさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

それでは議事に入らせていただきます。

最初の議事は、大阪・関西万博の機運醸成についてでございます。時間は14時15分頃まで、およそ30分程度を予定したいと思っております。この議題に合わせまして、本日は日本国際博覧会協会から、高科副事務総長様、そして、内閣官房国際博覧会推進本部事務局の福島次長様、そして大阪府大阪市万博推進局の奥村理事様にお越しいただいております。まずはそれぞれの団体様から5分程度情報提供をいただき、それぞれの県市の取組等について共有させていただくことといたします。それではよろしくをお願いいたします。

(高科日本国際博覧会協会副事務総長)

博覧会協会副事務総長の高科でございます。本日はお時間いただきましてありがとうございます。私からは万博の現在の準備状況について御説明させていただきます。

これが夢洲の工事前の状況、埋め立て地でございますので、まだ水が溜まっている状況ですけれども、次のページが、これが一月前くらいになりますけれども、現在の工事の状況でございます。報道等でパビリオンの建設の遅れを指摘されてございますけれども、海外150カ国程度参加いたします中で、その内の50カ国が御自身でパビリオンを作る、その内のいくつかの国がコンサルを見つけるのに苦労されていて、少し時間がかかっているということでございまして、そこは国と一緒に全面的にサポートしていきたいと思っておりますけれども、それ以外にも100カ国程度につきまして、タイプB・Cと書いてございますけれども、ここはもともと協会が、パビリオンを作ってそこに入らせていただくことになっている所でございまして、ここにつきましては基礎工事なども既に始まって、進んでいる所でございます。それ以外にもレストランですとか、催事場ですとか、あるいは象徴的なリング、こういったものの建設が今、着々と進めさせていただいている所でございます。

私どものオフィス、この右上にあります咲州庁舎という所にございますけれども、ここから会場が見下ろせるんですが、一週間おきに会場を見ると、また進んだなという感じがする状況とな

っているところであります。

次のページが、地下鉄の1駅延伸しまして、夢州の中に駅を作るんですけども、そのの工事も進んでおりまして、海底のトンネルは繋がっていて、そこに線路を敷設しているところでありまして、それからホームにつきましては御覧いただけるように大まかな形は、だいたいできてきているというところになっております。

次のページからは中身の方なんですけれども、パビリオンも順次コンセプトが固まった所から着手していただいている所でありまして、各国のパビリオンは、ドイツ、オーストリアはこんな形であります。

次のページが8人のテーマプロデューサーがおられますけれども、それぞれのプロデューサーもコンセプトの発表を順次していただいている所でございます。

また民間企業様については次のページですけれども、こんな形でやりますということを発表していただいております、2週間前くらいに半数の企業さんの発表会ありまして、今日実は東京で、残りの半数の企業様もコンセプトの発表会をやらせていただいております。

次のページが参加の状況なんですけれども、自治体参加催事、これは知事会で募集をかけさせていただきまして、このブロックの、中部圏の各県は全て手を挙げていただいて、今これ、個別に調整させていただきながら本番に向けて具体的な準備を進めさせていただければと思っております。

それ以外にも、次のページは、一般参加催事、これはどんな方でも参加できる催事でございます、これは愛・地球博では七千から八千の催事あったと言われておりますけれども、そこまではいかならないと思うのですが、かなりの数の催事が、という中で、今募集期間が始まっております、年末までの間が募集期間ということで、これも積極的に手を挙げていただければと思っております。それ以外にも、次のページは「フューチャーライフエクスペリエンス」、「TEAM EXPO」、比較的参加しやすいプログラムでございます、こういったプログラムも優秀な取組については、万博の本番会期中に会場での御披露の機会を提供したいと思っております。ちなみに11ページは今、「TEAM EXPO」中部ブロックからはこういった形の参加状況になっておりまして、全体ではもう既に1,700件くらい参加しておりますけれども、まだまだ絶賛募集中ですので、是非、県内の皆様にお声掛けいただければと思います。

それから、次のページが万博を機会に一步足を延ばして、日本全国を周ってもらおうという取組ですけれども、真ん中にありますのは万博のサイトなんです、この一番右にありますように、地域イベントカレンダーというのを用意して、これを万博開催期間中、全国各地でどの日にどういうイベントが行われているかというのが一覧でわかるカレンダーを万博のサイトの中におきまして、その色々な発信の動画みたいなものと併せて提供し、そこに行っていただくための旅行商品も検索できるようにする。こういったものを用意することによって万博に関心を持って、日本に来られるインバウンドの方のみならず、日本人の方も万博へ行く機会に一步足を延ばしてみようかと、ここに行ってみようかということがしやすくなる取組、これは既に全国の旅行関係企業様や交通関係、それからDMO関係の皆様と協力しながら作っている所でございます、次のページに、実は今日、ティザーサイトが先行オープンするということでこれから4月の本格オープンに向けて更に準備を進めてまいりたいと思っております。

最後に機運醸成ですけれども、既にこの中部ブロックの皆様には色々御協力いただいて、様々な機運醸成をしていただいてありがとうございます。

このページも次のページもですね。更にその次ページも。こんな形で今、協力いただいておりますけれども、17ページにありますように、11月30日から前売券の販売を始めます。そこに向けて、更にプロモーションを仕掛けていきたいと思っております。最後のページは、これは先々週に発表した新しいビジュアルなんですけれども、こういったものとか、近々新しい万博の動画も発表したいと思っております。こういったものを是非、提供いたしますので、是非色んなところで、御活用いただいて、ポスターですとか、デジタルサイネージですね、あるいは動画を流していただくとか、そういった形での御協力をお願いできればと思っております。協会からは以上でございます。

(福島内閣官房万博推進事務局次長)

私、内閣官房万博事務局で次長を務めております福島と申します。本日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。座りまして御説明させていただきます。

お手元の資料の「2025年大阪・関西万博最新動向と自治体の参画について」を御覧ください。まず、1枚目おめくりいただきまして、1ページ目の概要でございます。万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマといたしまして、「未来社会の実験場」をコンセプトとしております。再来年の4月から約半年間、大阪夢州で開催されますが、いよいよ来月の11月30日が500日前ということでございまして、チケットの方も販売開始されるということでございまして、この機に機運全体を一層盛り上げていきたいという思いでおります。2ページ目でございますが、パビリオンの展示でございます。公式パビリオンにつきましては各国政府・国際機関が企画するパビリオンでございまして、過去最高の153ヶ国の参加を見込んでおります。

またテーマ事業別パビリオンにつきましては、70年の大阪万博で申しますと太陽の塔のようなものでございまして、これにつきましては先程、協会の方からも御説明がありましたように8人のテーマプロデューサーの方が色々な企画をもって、楽しそうな企画をもってパビリオンを作るという状況でございます。

その他日本館、自治体館、企業館パビリオンがございまして、建設がまさに始まるという状況でございます。1ページおめくりいただきまして3ページ目、未来社会の実験場の具体化ということでありまして、万博のコンセプトでございます未来社会の実験場を具体化するためにですね、大阪・関西万博のアクションプランを策定しております。施行例としましては、下の方にございまして、空飛ぶクルマ、自動運転、水素・アンモニア発電等を記載させていただいております。

続きまして、自治体の万博への参加ということでございまして、もう1枚おめくりいただきまして、万博参加のポイントを4点、大きく記載してございます。

1つ目でございますけれども、他に類を見ない大きな人流ができるということでございまして、2,820万人の来場者を予定しております。その内350万人が海外から来られるということになっております。各国の政府ですとか、あるいはビジネスの関係者も多ございますので、こういった機会を是非、御活用をいただければと考えております。2つ目は自治体の魅力発信ということでござ

いまして、各自治体の魅力、取組状況などを、思いきってPRいただく場として万博を御活用いただければと思います。3つ目でございますけれども、この万博につきましては最新の技術が結集し、いろんな方々が参加するということでございます、そういった絵姿を子どもたちにしっかり見てもらうことに目的と考えております。4つ目でございますが、未来社会の実現、SDGsに向けた機運の高まりということでございます、自治体さんの取組についてもPRする機会になると考えております。

その次のページでございますが、万博交流イニシアチブでございます。そういった中で政府としましても、万博がもたらすメリットを大阪・関西だけではなく日本全国が受けることができるようにという観点から、昨年の12月に万博を契機にしまして、全国の交流人口の拡大を図る、万博交流イニシアチブを打ち出したところでございます。

具体的な取組につきましては、次のページでございますけれども、まず万博国際交流でございます。これは国際交流プログラムということでございます、海外と人の交流の促進につながるような取組を支援しております。モデル事業としましては、昨年度と今年度、今のところ合わせてですね19の自治体で色んな交流を支援している所でございます、まだまだこれから色々と新たに支援していきたいと考えております。中部地方につきましては石川県の芸能による文化交流などが入っております。このイメージでございますけれども、万博期間までのイメージとしましては、地域住民の文化交流ですとか、青少年交流等々で関連づくりをしっかりとやっていき、会期中になりますと各国のナショナルデーですとか、テーマウイークで発信したりと、そういうようなイメージを考えております。1枚おめぐりいただきまして、教育旅行でございますが、修学旅行を使って万博を体験していただければというふうに思っております。2025年の修学旅行につきましては、今年度中に行き先が決まる所が多いと承知しておりまして、ぜひともよろしく願いいたしますということでございます。また入場料につきましても、先程言いましたように、学校団体料金ということで割引を設定させていただいておりますので、御活用いただければと考えております。

続きまして次のページでございますが、日本博2.0でございます、これは文化庁が日本博2.0というものをやっておりますけれども、それと万博が連携しております。採択事業につきましては、万博会場の中でイベントを行うなどを予定しております。是非、自治体さんにおいて採択するような事業がございましたらですね。是非一緒に連携して盛り上げていくように御活用いただければと考えております。

その次のページでございますが、テーマウイークでございます。テーマウイークにつきましては、地球規模の課題を週単位でテーマとして設定しまして、テーマに合わせて集中的に国際会議ですとか、展示会やビジネスイベント、シンポジウム等を開催する予定となっております。こうした機会を生かしまして、テーマごとに自治体さんの方で取り組んでいらっしゃる取組とコラボ出来るということがございましたら、是非連携させていただきたいと考えております。

最後でございますけれども、万博については、これから具体的な内容を詰めていくことになっておりますけれども、我々としましては万博を関西だけではなくて日本全体の取組として一層盛り上げていきたいと考えておりますので、知事の皆様におかれましては、どうぞ御理解いただきまして、是非御協力いただければと考えております。

本日はありがとうございました。

(奥村大阪府大阪市万博推進局理事)

すいません。大阪府市万博推進局の理事の奥村でございます。

今日は貴重な時間をいただきまして、まことにありがとうございます。私の方からは全国の知事会、大阪・関西万博推進本部の事務局という立場といたしまして、機運醸成に向けたお願いにあがった次第でございます。恐縮でございますが座って説明をさせていただきます。

まずは、資料の1ページ目でございますけれども、昨年の12月にアンケート調査を実施しておりますが、この万博テーマの認知度、あるいは来場意向度といったデータはまだまだ低い状況になっているということでございます。

2ページ目を御覧ください。今、申し上げたような事を踏まえまして、内閣官房、国際博覧会協会そして大阪府市、三者が一体となって各地域ブロックの知事会におきまして、直接、知事の皆様に機運醸成の取組を進めていただくようお願いさせていただいていると、本日もこういった主旨で参加をさせていただく次第でございます。

次のページを御覧ください。こちらは、機運醸成のスケジュールということで定めてございます。万博の開催までに、黄色の部分でございますが、3つのPRの重点期というのを設けておりまして、ここで特に集中してPRを行うということといたしております。

具体的には、1回目ということで、開幕500日前から前売入場券の販売が始まります、この秋ということでしておりまして、それ以降、2回目、3回目ということで、来年の秋そして、3回目が開幕前後の2025年春頃を予定しているということでございまして、現在、ちょうどこの1回目の重点期に当たっているということでございます。

4ページ目からは、今年度のPR重点期におきます主な取組事例ということで、イベント等における事例を御紹介しております。今回、PR重点期には、官民一体となって、府内外約160のイベントなどにおきまして、万博PRが展開されるということといたしております。例えば、左上にございますけれども、今週末ではもうすぐ万博開催500日前エキスポフェスと称しまして、府内市町村と一緒に、大規模なイベントを、これは万博記念公園、1970年が開催された場所でございますけれども、そちらで開催いたします。また右上の方は、開幕500日前の11月30日に開催する記念イベントということで、大阪観光PRと併せまして、万博への期待感向上、機運醸成を図るステージイベントを実施するものでございます。

また下の部分では、大規模イベントにおきますPRの例ということで御堂筋、大阪の顔であります大通りでございますけれども、そこで開催いたしますイベントなどを掲げてございまして、またこういった場でミyakミyakにも出演してもらい、機運を盛り上げていきたいと考えてございます。

次に5ページ目以降でございますけれども、こちらは公共交通機関、あるいは主要ターミナルなどにおきまして、集中的に万博のロゴマークあるいはキャラクターデザインにより装飾を実施するというシティドレッシングというようなことでございます。

5ページ目の所では、大阪の地下鉄でありますメトロでありますとか、JRなどの公共交通機関におきまして、車両へのラッピングでありますとか、あるいは航空会社におきましても、特別塗

装のミyakumiyakujettoの運行が予定をされてございます。

6 ページ目以降につきましては、上半分に記載のバナーフラッグ、サイネージ等につきまして、大阪市内の都市部を中心に主要な道路あるいは駅の周辺などに掲出し、集中的なPRを展開しているということでございます。

最後でございますが、7 ページの所でございますが、こちら各県の皆様へのお願いという事で掲載をさせていただいております。この間、様々な連携等に取り組んでいただいているところでございますが、是非、各県で主催するイベントなどにおきまして、万博のPRを盛り込んでいただきますように御協力をお願いしたいというものでございます。とりわけ、先程申しました来年度以降のPR重点期というのがございますので、そういった中で取組を進めていただけたらと考えてございます。今年度、大阪府市の万博推進局内に地域連携タスクフォースという組織を設置いたしております。各県におかれまして、万博のPRと提携可能な大規模なイベントなどがございましたら、是非、御連絡いただければと考えてございます。

引き続き、全国の皆様と一緒に万博の成功に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、何卒御協力のほどをよろしくお願いいたします。

以上でございます。ありがとうございます。

(三日月滋賀県知事)

はい、ありがとうございます。

それでは、各県市の取組、御意見等について御発言いただくことといたします。

事前に御発言の希望を調整させていただいておりますので、各県1分30秒程度でお願いしたいと思っております。事務局席前方にタイムキーパーを置いておりまして、1分経過したら「発言をおまとめください」とボードを提示させていただきますので、何卒よろしくお願いいたします。

それでは新田富山県知事から順にお願いいたします。

(新田富山県知事)

ありがとうございます。事務局の皆様、今日はありがとうございます。

富山県では都道府県として初めて、TEAM EXPO 2025の共創パートナーに登録し、共創チャレンジを支援しております。

来月には、国の万博国際交流プログラムとしてアイルランドで交流事業を実施いたします。富山県の寿司、美食、歴史、文化、観光の魅力をアピールして、アイルランドとの交流の第一歩にするとともに、これからのインバウンドの増加、また、輸出拡大にもつなげていきたいと考えております。また、万博開催期間中には、全国知事会の調査では、都道府県の出展があまりなかったということですが、テーマウイークへの出展を検討しております。テーマウイークの中でも、健康とウェルビーイングの週に出展しまして、国内外に向けて本県のウェルビーイングの向上に向けた様々な取組を発信させていただきたいと考えております。富山県では、国内外の方との共創で成長戦略を実現するべく、各種の取組を進めておりますが、万博を世界の人々をつなげる好機と捉えまして、富山県成長戦略のビジョン、「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山」の推進～につなげてまいります。

またその他、開催500日前の方針ですが、節目、これまでも2年前、700日前、600日前と発信してまいりましたが、500日前にも同様に情報を発信したいと考えております。以上です。

(三日月滋賀県知事)

続いて石川県知事、馳知事、お願いいたします。

(馳石川県知事)

はい、お疲れ様でございます。

石川県は、万博国際交流プログラムについて申し上げたいと思います。

石川県では、韓国の全羅北道と2001年に友好交流に関する合意書を締結して、青少年交流をはじめ、環境や人材などあらゆる面で交流を積み重ねてまいりました。

そこでこの8月に、全羅北道のキム・グァンヨン知事を訪問して、万博に向けて両地域の文化交流を一層推進していくことで合意しておりまして、この取組は先月、国際交流プログラムのモデル事業に採択されました。具体的には、今月21日に石川県で開催中の国民文化祭に全羅北道立国楽院の芸能団を招聘し、韓国の伝統的な伝統芸能である「パンソリ」などを御披露いただくこととしています。

次に、万博会場での自治体参加催事について、石川県の魅力である食と祭りをテーマとした国際文化交流の取組の申請中でありまして、こうした取組は、文化安全保障の観点からも極めて有意義であると考えておりますし、この万博は国際文化交流を促進する、またとないチャンスと考えておりまして、石川県からも万博に向けた機運醸成を図ってまいります。以上です。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございました。続いて古田岐阜県知事お願いします。

(古田岐阜県知事)

御説明色々ありがとうございます。かつて愛知万博の時には、大村、当時の通産省政務次官と御一緒に私も万博担当でございましたから、色んなことを思い出されるのですが、そもそも万博というのは世界各国の参加を得ながら、世界的、人類的な課題、テーマを発信していく、そういう場を提供する国家事業でありまして、オールジャパンで取り組んでこそ、成功するというのが基本的な私の認識です。そして自治体にとりましては、オールジャパンの一角として世界に魅力を強力で発信する絶好の機会を与えていただけるものと思っておりますし、積極的に取り組みたいと思っております。

色々と御紹介ありましたので、私どもも出来る限り参加する方向で詰めてまいりますけれども、先般、参加する催事の仮内定をいただいておりますけれども、来年ちょうど私ども、国民文化祭とそれから高等学校の総文祭と、文化行事が2つ立て続けでございますものから、いわば文化イヤーということで、清流の国ぎふの清流文化を発信する、そのレガシーを万博に引き継いでいく、繋いでいくというようなことで、様々な観点から文化面でのアプローチを積極的にやっていきたい、こんなふうには思っております。

お時間も制限がありますので、3点お願いしたいと思います。

1つは、万博全体の進捗状況の情報提供を積極的に、迅速にやっていただきたい。今日は大変タイムリーな、良い機会をいただいておりますが、どうしてもネガティブな情報が先に走ってくる。これを乗り越えていかなければいけない。ネガティブな情報を乗り越えていくためにはポジティブな情報をどんどん出していく。そこのところ私どもも御一緒になってやっていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いしたいと思います。

それから2点目は、準備のプロセスで色んなことが起こってくるわけで、そういった時に、できる限り色んな要望やら、御提案やら、御注意も出てくると思っておりますけれども、完全に固まるまでの間は柔軟に御対応いただければと、これはもう決まったぞと、これでおしまい、締め切りということではなしに、柔軟に対応していただければありがたいなと思っております。

3番目は自治体への支援ということで、例えば、デジタル田園都市国家構想交付金に万博優先枠を設けるとかですね、何か積極的な支援というものが形になるといいんじゃないかなと、そんなふうに思います。よろしくをお願いいたします。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございました。続いて大村愛知県知事をお願いします。

(大村愛知県知事)

はい、ありがとうございます。大阪・関西万博、あと2年ということですので、皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っております。今、古田知事が言われましたが、二十数年前に私が経産省に行かせていただいた時には、当時万博の担当局、古田担当局長で、当時「こんなスケジュールで間に合うわけないだろ馬鹿者」という鞭をいれられたことを思い出しますが、それだけ大変だということは良くわかりますけれども、あのとき、総合プロデューサーが代わったり、事務総長が代わったりと色々ありましたが、ギリギリ間に合ったというのが実際に携わった人間の本音でありまして、今の大阪・関西万博さんも大変だというのがよくわかります。ありがとうございます。

さて、私どもはですね、2025年、愛知万博から20周年の節目の年でございまして、自治体参加催事にも出展させていただきますし、万博会場でも20年前から受け継がれる愛知万博の理念・成果をしっかりと発信して盛り上げていきたいと思っております。

また、万博会場でありました愛・地球博記念公園では、昨年11月にジブリパークの第1期開園、そして今年の11月には「もののけの里」が開園し、来年3月16日に『魔女の宅急便』『ハウルの動く城』といった人気の作品をモチーフにした大きなエリアも開園し、ネコバスも走らせるということでございますので、また大阪・関西万博とコラボして盛り上げていきます。なお、2025年には、私ども、愛知万博20周年記念事業というのをイベント中心ですが、愛・地球博記念公園を中心に開催いたしますので、十分にコラボして、連携してやっていけると思っておりますので何卒よろしくお願いいたします。

万博機運醸成、それから万博の成功に向けまして我々も前回の開催県として、全力で取り組んでいきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございました。一見三重県知事お願いいたします。

(一見三重県知事)

はい、ありがとうございます。初めての発言の機会でございますので、まずは三日月知事はじめ、滋賀県庁の皆さん、素敵な会を設定していただきまして、ありがとうございました。また、甲賀市の皆さんにもお礼申し上げたいと思います。私ども三重県には、甲賀と同じ忍者の里である伊賀がございます。伊賀はコウカとは違いましてイガというふうに濁点がついております。この濁点を取りますと別の意味に、海の生物になってしまいます。伊賀はイガでございます。400万年前には、琵琶湖が実は伊賀にもありまして、どんどん北の方に移って、やがては日本海に抜けてしまうんじゃないかという話もあります。伊賀に伊賀焼という焼物もございます。古琵琶湖の土で作るものもございます。そういった共通点もございます。

それでは議題でございます。冒頭ちょっと長く話をしましたので、お手元に資料を1枚置かせていただきまして大変恐縮でございます。これは説明を簡素化するためでございます。発言をまとめるように指示もいただきましたのでまとめさせていただきます。

私どもが申し上げたいのは、右下でございます。せっかくの万博の機会でございますので、中部圏の各県、様々な取組をしておられます。私どももやっておりますけれども、できれば海外からあるいは日本からでも万博に来られた方、できればこの地域、皆さんの地域含めて、周遊してもらいたいと思っております。今後、事務局の方で御相談いただければと思っておりますけれども、例えば中部圏知事会議で温泉ならこういうものがある、祭りならこんなものがある、周っていただくものとしてこんなものがあるというパンフレットの的なもの、あるいはホームページ的なものでもいいかもしれません。せっかく中部圏知事会がありますので、そういったものをアピールしていつはどうかという提案を1つさせていただきたいと、万博を契機とした周遊観光のためにということでございます。以上でございます。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございました。

最後に滋賀県知事として私も一言申し上げますけれども、滋賀県は今、関西広域連合連合長をお預かりしておりまして、先般、555日前の10月6日に関西パビリオンの起工式を開催させていただきました。その際には、三重県の廣田副知事にも御出席いただいて皆で盛り上げていこうとした所でございます。

また滋賀県としては、その関西パビリオンの中に滋賀県ブースを設けて、琵琶湖のことや滋賀県の魅力などについて発信していきたいと思っておりますし、何より万博は子どもたちに夢と希望を与えるものだというので、4歳から高校生世代を対象に1回は万博に行けるという、そういう取組を経済界などとも協力しながらやろうとしているところでございます。いずれにいたしましても、今日で543日前ということになりますので、是非皆で力を合わせて盛り上げていきたいと思っております。

なお一点、昨日、鹿児島国体が閉会しましたけれども、この万博が行われる年、9月28日から、万博は10月13日までですけれども、滋賀県で国民スポーツ大会を開催させていただくことになりまして、その際には、宿が足りない、バスが足りないということがどうも想定されるようですので、中部圏知事・市長の皆様にも様々な形でお力添えいただけたらありがたいなということをお願い添えて滋賀県の発表とさせていただきます。

何かそれ以外に、よろしゅうございますね。(なし！)

はい、ということでありましたら、ここでミヤクミヤクさんが、ミヤクミヤク君が、ミヤクミヤクちゃんがお越しいただいているということでございますので、皆でフォトセッションをしようということでございます。急ぎ準備をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

——フォトセッション——

(三日月滋賀県知事)

どうも皆さんありがとうございました。まだ終わりではございませんので、今日、博覧会協会の皆さん、内閣官房の皆さん、大阪府・大阪市の万博推進局の皆さん、そしてミヤクミヤクさんはここで御退席ということです。どうもありがとうございました。

御協力ありがとうございました。あわただしくて申し訳ございません。

それでは、議事の2つ目、国への提言ということで進めさせていただきます。まずは緊急提言として本県より1つ御提案がございます。資料に入っていると思いますが、フォルダの2、「農地中間管理事業の安定的な運営について」の緊急提言について、私の方から提案をさせていただきます。

御案内のとおり、農地中間管理事業につきましては、農地管理機構が中間管理権を取得して農地の貸借を行って、担い手への農地の集約化を図るものでございまして、平成26年度から全国一斉に開始されております。この事業は制度開始当初は地方負担を求めない形でスタートし、平成28年度からは地方に3割の負担が求められる形となりまして、安定的に事業が実施され、担い手への農地集積は、例えば滋賀県では65.7%まで進んでいるという状況です。全国各地、そういった傾向があるのではないのでしょうか。この農地貸借につきましては、令和5年度から農業経営基盤強化促進法等の改正によりまして、実質的に農地中間管理事業による方法のみになりましたことから、農地中間管理機構の役割は高まるものと考えられます。その一方で、国の来年度令和6年度の概算要求の説明の中で、農地中間管理機構の運営費について、人件費は現行の補助率を維持するものの、一部事務費につきましては段階的な補助率の見直しを行う方向性が示されている所でございます。

今回の見直しは将来のその他事務費や人件費の削減につながりかねないものと考えておりまして、他の県におきましても同じ課題があるのではないかと存じます。

このため、今後ますます役割が高まる農地中間管理機構の安定的な運営がはかられますよう、人件費はもとより事務費につきましても国の負担割合を維持し、必要な額を継続的に確保していただきたい旨、提言を行うものでございます。説明は以上でございますが、今のこの提案について何か御意見をお持ちの方は挙手いただければと思います(特になし。賛成。)

よろしゅうございますか、ありがとうございます。一部、賛成の声もいただきました。それではこの文案を国への提言ということとさせていただきますと存じます。

次に、春秋共通の国へ提言について議論することといたしまして、前回協議を行いまして、取りまとめた提言に時点修正等を加えたものでございます。ここで石川県の馳知事から発言希望を伺っておりますので、よろしくお願いいたします。

(馳石川県知事)

はい、よろしくお願いいたします。

提言にございます、子どもたちのウェルビーイングの実現に向けた教育の充実に関連して、子どもたちの教育環境について、今年の夏の酷暑を踏まえて国への要望事項を追加いただきたく申し上げます。

全国的に、今年の夏は非常に暑うございました。石川県でも熱中症警戒アラートの発表日数が、昨年に比べて倍増するなど猛暑が続き、学校現場では体育の授業や部活動において熱中症により緊急搬送される事例が生じております。こうした事例は全国でも同様に起きておりまして、児童生徒の安全を確保する観点から熱中症リスクへの対応が早急に求められておりますが、全国の公立学校における空調設備の設置状況については、普通教室では9割を超えて設置されておりますが、体育館については1割未満となっており、石川県ではわずか1%でございます。

学校の体育館は児童・生徒の体育の授業・集会・学校行事・地域のスポーツクラブなどの活動の場となるだけでなく、災害時には地域住民の避難所としても使用される施設です。その安全性・機能性の確保は非常に重要です。

については、体育館等における空調整備の促進に向けて、補助対象となっていない高等学校を対象とするなど、補助制度を充実するほか、スポーツ振興くじtotoの収益を活用した助成事業に、空調設備の設置を追加するなど、維持管理費も含めて、十分な財政支援を求める必要があると考えておりまして、ここに盛り込んでいただきたいと存じます。

(三日月滋賀県知事)

はい、今の内容につきましても御異論ないと思います。はい、どうぞ富山県知事。

(新田富山県知事)

今年のG7富山・金沢教育大臣会合を共催した県としても賛成させていただきます。よろしくお願いいたします。

(三日月滋賀県知事)

はい、他に何かございますか。よろしゅうございますでしょうか。(賛成。)

はい、ということでございますので、この内容も盛り込んで提言活動を行っていくことといたしますのでよろしくお願いいたします。

それではここで休憩を取るようと言われておりまして、14時、ちょっと短いですけど5分間の休憩をさせていただき、再開を14時35分といたします。よろしくお願いいたします。

(三日月滋賀県知事)

それでは会議を再開させていただきます。休憩時間の間にお手元にお饅頭、こちらは滋賀県甲賀市の「うずくまる」というお菓子でございます。信楽焼の小さな壺をモチーフにしたお菓子ということで上級の米粉に信楽の朝宮茶を添え、つぶ餡を包み込んだ上菓子と紹介するようにと言われております。お茶はほうじ茶を今回は御用意いたしましたので、ぜひお楽しみいただきながら議論をいただければと思います。

次の議事は協議話題になりまして、こちらは70分程度の時間を予定しております。

まず私の方から今回の協議話題の提案の趣旨と滋賀県の取組について、御説明をさせていただきます。資料はパワーポイントを御用意しておりますので御覧いただきたいと思っております。最初の地図にありますように、どの県市もそうかもしれませんが、滋賀県も交通の要衝でございます、中山道、東海道はじめ多くの街道が行き交っております、現在、新幹線・JR在来線が琵琶湖をとりまくように整備されています。また二次交通、三次交通として路線バスもあり、琵琶湖の真ん中、近江八幡のちょっと上に小さく島がありますけれども、日本で唯一、淡水湖の有人離島の沖島に向けて通船なども行われています。

2ページにありますように、公共交通は全国同様、極めて厳しい状況にあるということでございます。このページの下段にございますように、滋賀県では毎年、県政世論調査をやっておりますが、公共交通の対する不満度が近年連続してワーストになっておりまして、先日速報が出ました2023年の調査でワースト十三年連続となっております。その事も踏まえて、滋賀県の公共交通をより良くしようという様々な取組をしております。いくつか事例を紹介いたしますと、1つはこの甲賀市に走っております信楽高原鉄道についてでございます。国鉄時代から第三セクター方式で運営されておりましたが、大変厳しい状況、また平成3年列車衝突事故などもございましたので、様々、協議を行った結果、平成25年から鉄道事業を再構築実施計画に基づきまして、公有民営の上下分離方式で運行を行っております。10年ごとの計画期間でございますが、改めて令和5年度以降も、令和10年度まで計画を行いながら、県からも支援を行って様々な取組を行っているところでございます。

次のページ、近江鉄道線についても御紹介をさせていただいております。

こちらは明治時代から通っている、約60kmの33駅のある5市5町を跨る鉄道線区でございますが、こちらも経営が大変厳しいという状況を受けまして、様々な検討を行ってまいりました。県も入りまして、沿線5市5町で近江鉄道沿線地域公共交通再生協議会設置をいたしまして、様々な分析・議論を行いました結果、ちょうどコロナに入った2020年3月でしたけれども、鉄道に代わる公共交通は中々、逆に厳しいとの事で、全線存続を合意いたしまして、いよいよ来年度から公有民営方式による上下分離への移行について合意がなされて、今、鋭意取組を行っているところでございます。廃線になる前に、また、より厳しくなる前にまだ比較的余裕がある時期に早めに厳しい状況を共有し、自治体連携で取組をするというリーディングモデルを作ることができればということで、皆で今、取組を進めているところでございます。

また5ページにありますように、それ以外にもJR西日本JR東海との様々な連携・協力でありま  
すとか、バスなど二次交通をうまく使いながら、様々な取組を各自治体がそれぞれ行っている  
ところです。特に右下に紹介しておりますけれども、近江鉄道を全線無料にしてどれだけ乗って  
いただけるのかという、もし無料にしても乗る人がいなかったら、もう上下分離もやめようと思  
っていたんですけれども、幸い多くの方が乗っていただいたり、先般、2年を迎えましたので、今回無  
料じゃなくて100円をいただいて皆様に御利用をいただく、また鉄道ではなくて、沿線市町と様々  
なイベントをやってみんなで盛り上げるという取組を行いながら、手前味噌かもしれませんが、鼯  
目かもしれませんけれども、こういう取組をする事によって、駅員さんのサービスも良くなっ  
たとか、少し前向きなスパイラルが生まれつつあるのではないかと捉えているところでございま  
す。

次のページ、6ページには、地元甲賀市における様々な取組を御紹介させていただいておりま  
す。

特に冒頭に市長からも御紹介がありましたように、大変製造業の多いこの当地、駅からの送迎  
バスも企業ごとに運行されているんですけれども、例えば駅から工場までは社員さんを乗せて、  
工場から駅までは、町民・市民を乗せてという社会実験を行いながら、新たな公共交通づくりを  
今、模索しているところでございます。

ただ7ページにありますように、厳しくなったから支援ということだけでは、根本的な問題は  
解決しないのではないかとという事で、現在滋賀県では、左上にありますように、新たな地域交通ビ  
ジョンを策定し、右側にありますように、そのビジョンを実現させるための財源を国にも求める、  
そして自治体も負担する、事業者も頑張る、ただ、新たな財源というものを作ることができないか  
という検討を今、始めているところでございます。

8ページのところにビジョンにつきまして、少しさわりを紹介させていただいております。

どの県市もそうかもしれませんが、エリアによって公共交通が身近なところと少し公共交通か  
ら疎遠なところとあると思いますので、エリア分け、地域分類を行った上で、現状と同じまま、最  
低限を確保する場合、理想の公共交通をつくる場合と、3パターンを作りながらどれくらい年間  
費用が必要なのか、試算を昨年度行いました。8ページの下段にありますように、どの地域も理想  
の地域交通を作った場合、かつ、施策を入れていった場合、約90億円の費用が必要ではないかとの  
試算をもちながら、ビジョンの中身を詰めていこうとしているところでございます。

9ページにありますように、そのビジョンをつくるときに行政だけではなくて、県民、市民、町  
民みんなでつくろうと、また、住んでいる人だけではなくて、例えば赴任で出てこられている方々、  
さらには観光で来られている方々を含めて、今、公共交通未来アイデア会議を開催し、皆さんの意  
見を出していただく機会を作っているところでございます。

9ページのところに興味深いデータとして、今、出つつあるのは、公共交通は必要ですかとい  
うことについて問うと、ほぼ全て、96%の方が必要ですとお答えいただいておりますが、どれくらい  
利用されますかという、右側ありますように、ほとんど使わない方が32%で最多ということと  
か、もし仮に税負担をする場合、どれくらいが許容額ですかと問うと、月100円増えるくらいだ  
たらいいんじゃないかという方々が37%、4割近くいらっしゃるという事もございました。中  
には月500円増えるくらいだったらいいんじゃないかという方も23%いらっしゃるということもご

ざいまして、公共交通が必要だ、その公共交通を維持するために一定の負担をする事はやむを得ないのではないかという方々の御理解も一定あるのではないかというデータが得られつつあります。ただ、負担というのは中々ハードルも高く、負担は大きいより小さい方がよいので丁寧に議論しようという事を今、行っているところです。

ちなみに10ページにありますように、古い、また高い、中々来ない公共交通ではなくて、新たな技術を活用しながら新しい公共交通のイメージをまたそれぞれの地域ごとの移動のイメージをWEBプロモーションで作りまして、皆様方と共有し、「SHIGA SMART ACCESS 2040s」という先を見通しながらの、今、ビジョンの共有をしようとしているところでございます。

最後、11ページになりますが、右側で地域交通ビジョンの策定の議論を進めながら、左側では5年前から滋賀県で設置しております、税政審議会での公共交通を維持するための、例えば税負担を求める場合、どういう留意点やどういう方策があるのかということとを専門家の先生方にも御議論をいただいているところでございまして、今年度以降、このビジョンと財源セットでの議論に今、挑んでいるところでございます。ぜひこの議論の過程をそれぞれの中部圏から皆様方と共有し、また何より負担すること、税をつくる事が目的でなくて、公共交通をより便利にして暮らしを豊かにする事が目的でございますので、そのためのアイデアつきまして、今日この協議の中で共有することができればと考えているところでございます。

私からの問題提起は以上でございまして、これ以降はそれぞれの皆様方から取組の紹介、御発言をいただければと存じます。こちらは5分程度、それぞれ時間を設けてさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それではまず富山県知事からお願いいたします。

#### (新田富山県知事)

ありがとうございます。

まず早速、左側の絵ですが、これは富山県の鉄軌道ネットワークの状況であります。富山県を横断するあいの風とやま鉄道、これが緑色のラインになります。これは2015年に北陸新幹線開業とともにできた、いわゆる並行在来線です。西部のほうに水色のラインが2本あります、これはJR城端線、氷見線、そして中央にはJR高山本線があります。そして県東部ピンク色、これが地元の私企業である富山地方鉄道が運行しているラインです。もう1つ、真ん中の方、ちょっと左、海沿いに万葉線というラインがあります。全国で唯一だといわれておりますが、すべての市町村に鉄道駅があるということが本県の強みであると考えております。右側のグラフ、新型コロナ禍の前までは、公共交通の利用者は堅調に推移していましたが、コロナで落ち込み、令和2年度からコロナ前の水準にはまだ戻っていません。人口減少、少子高齢化も本格化していきます。このままでは、利用者がさらに減少し、サービスレベルの低下が進み、また人が減っていく。そんな悪循環に陥ることも危惧されます。

そのため、新たな対策を検討すべく、昨年6月に富山県地域交通戦略会議を立ち上げました。

次のスライドですが、立ち上げから1年2か月間ですが、本会議、その下に4つの部会がありますが20回の会合を重ねております。年度内に地域公共交通計画を策定すべく精力的に議論を行っております。特徴としては、欧州における持続可能なモビリティ計画、SUMPの考え方を参考に進

めていくと、Sustainable Urban Mobility Plansとありますが、SUMPは人に焦点を当てた計画であり、事業の採算性の確保ではなく、クオリティ・オブ・ライフの向上を重視していること、ビジョンや目的について、ステークホルダーを巻き込み、最初から合意形成を行い、そこから逆算していわゆるバックキャスト型の政策策定手順を踏むことがポイントです。

そのため戦略会議では、事業者の経営改善や採算性改善という視点ではなく、県民のウェルビーイング向上の視点から議論することを最初に決めました。その上で具体的な方策の議論に入る前に市町村や事業者など、関係者の共通認識をまず固めるため、自治体の積極的な関与を盛り込んだ基本的な方針、また検討のポイントを整理した地域交通ネットワークの目指すべき姿、ここを合意しました。それから議論を進めております。

次のスライドです。8月の直近の会議ですが、自治体や県民などの関係者の役割、責任分担について議論を行いました。これまでの自治体の役割・責任は、交通事業者の経営努力に対して側面支援をすることででしたが、事業者の採算性の確保の視点に立った取組をこのまま続けていけば、人口減少下ではコストカット、サービスカットを招くことになると思います。そこで、地域交通サービスの位置づけ、地域の活力・魅力の向上に向けた役割・責任分担として、自治体、県民の役割を事業者の側面支援という従来型の考え方から、自らの地域に対する投資・参画へと舵を切りました。昨年8月に友好提携都市である、米国オレゴン州・ポートランドを訪れましたが、そこで交通局と意見交換を行いました。ポートランドでは市民は安全に簡単に移動できる権利を持っているという考え方のもと、当局が道路と公共交通機関を一括して管理しています。先ほどのSUMPと通じる考え方であり、本県でも地域交通サービスを公共サービスとして位置づけることに背中を押されたことをございました。最後のスライドになりますが、この会議の議論を踏まえて、公共サービスとして地域にとって必要なサービスの確保・向上のため、自治体自ら投資するといった考えに立ち、今年度から早速始めております。1点目は左の写真ですが、富山地方鉄道という私鉄のレール、枕木などの整備です。これまでは中小の私鉄である富山地方鉄道に一定の負担を求めていましたが、運行主体が民間である鉄道も自分たちの地域にとって大事な公共サービスであり、安全性・快適性を高めるために必要な投資ということで、国の支援を活用しつつ、地域の当事者である県、沿線市町村ですべて支える事にしました。

2点目、右側ですが、万葉線というライン、この交通ICカード導入です。地域にとって大事な交通サービスである万葉線の利便性向上のために必要な投資としてこれも同様に国の支援を活用しながら、沿線市と県ですべて支える事にしております。

今後も年度内の策定に向けて、投資・参画という観点から更なる具体的な施策の検討を進めてまいる予定でございます。富山県からは以上です。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございました。続きまして、馳石川県知事お願いします。

(馳石川県知事)

資料1ページを御覧いただきたいと存じます。石川県での地域公共交通の維持・活性化の取組として、鉄道についての事例を説明させていただきます。

石川県の鉄道としては、JR西日本の北陸本線七尾線のほか、第三セクターののと鉄道、IRいしかわ鉄道、そして、金沢市を中心に運行する北陸鉄道の石川線・浅野川線がございます。このうちIRいしかわ鉄道については、来年3月の北陸新幹線の敦賀延伸に伴い、JR西日本から経営分離される金沢から西の区間も運行する予定となっておりますが、この区間の輸送密度は金沢から東の区間と比べると7割近くと見込まれており、厳しい経営状況となることが予想されています。

県としては鉄道については、何よりも安全運行が大前提である事から、これまで地域鉄道に対してレール、枕木の交換をはじめとした安全運行を確保するための設備投資を国や市町と連携して支援してきております。

またのと鉄道には、平成27年の北陸新幹線の開業のタイミングに合わせて、県と沿線市町で観光電車のと里山里海号を導入するとともに、JR七尾線には平成27年秋のデスティネーションキャンペーンに合わせて、観光列車花嫁のれん号が導入されておまして、新幹線開業効果を能登へ波及させる役割を果たしております。一方で少子高齢化や道路網の整備、近年の新型コロナウイルス感染の拡大などによって、利用者減少に加えて、燃料価格の高騰により地域鉄道の経営はさらに厳しさを増しております。

次のページを御覧ください。中でも、金沢市を中心とした石川中央都市圏の住民の通勤・通学の足となっている北陸鉄道の石川線・浅野川線は慢性的な赤字路線であります。北陸鉄道さんが運行する高速バスや貸切バスの収益によって鉄道の赤字を埋めてまいりました。しかし、コロナ感染症の拡大によって、これらのバスの利用者も大幅に減少したことに伴いまして、鉄道線の赤字をバスの収益で埋める経営スタイルが崩壊しております。地域公共交通事業を行う北陸鉄道の経営は大変厳しい状態にあります。

次のページを御覧ください。こうした事も踏まえて、石川中央都市圏では、持続可能な交通ネットワークの構築に向けて、昨年2月に地域公共交通活性化再生法に基づく、法定協議会を設置して、数度にわたる議論を経て、今年3月に地域公共交通計画を策定しました。特に経営状況の悪い石川線のあり方を決めるために沿線市町の首長が話し合いをし、バス運転手が不足している事や鉄道はBRTやバスと比較すると大量輸送が可能で、速達性や定時性が高い事から、鉄道として存続させる方針で意見が一致いたしまして、今、利用促進策を協議中です。今後、地域の足としての利便性向上や利用促進策、行政の関わり方について、年内を目処に意見を取りまとめて、来年1月には地域公共交通協議会において鉄道事業再構築計画を策定する事になっています。今後とも、地域公共交通の維持・活性化のためには、こうした知事会を通じて国に対して地方鉄道の維持・確保に向けた支援制度の拡充をはじめとして、実情に応じた支援を講じるように求めたいと思っています。

次のページを御覧ください。資料4 ページ目です。無人駅の利活用について申し上げたいと思います。全国的に鉄道駅の無人化が進んでおまして、石川県でも全体の7割が無人駅となっております。市町での取組が中心となりますが、この無人駅を地域の様々な拠点として、利活用する事も重要ではないかと思えます。

無人駅でありましても乗降客はおりまして、コワーキングスペースやカフェなどを設ければ、にぎわいの拠点となり、地域の活性化にもつながりますし、障がい者への支援ともなります。例えば石川県の加賀市では、一昨年10月に無人化された、大聖寺駅の駅舎をJRから取得して、ベーカリ

ーやコワーキングスペースを整備したところ、多くの利用があり、賑わいにつながっております。

こうした拠点づくりは障がいのある方、介助が必要な方の見守りにもつながるのではないかと考えておりますし、家でもない学校でもない会社でもない第三の居場所としての役割も担うのではないかと期待をしております。国からはこうした点も含めて、地域公共交通の支援をより充実・強化してもらう必要があると考えています。以上です。

(三日月滋賀県知事)

はい、ありがとうございます。続きまして 古田岐阜県知事お願いいたします。

(古田岐阜県知事)

ありがとうございます。

私どもの資料1 ページを御覧いただきますと、令和2年の法改正に基づきまして、全県域を対象に岐阜県地域公共交通計画を策定したところでございます。各自治体では、少子高齢化は当然として、岐阜県は全国有数の車社会といえますが、自動車依存度の高い社会でありますし、またこのところの状況として、高齢者の免許返納が4年間で約3割増ということで急速に増えてきております。そうしたことから、いろいろとこの資料にも書いてありますように、難しい状況にはありますが、広域交通なり地域内交通の維持確保と、それから効率性向上・利便性向上ということの活性化ということについて、地域公共交通協議会、70団体から成る協議会でございますが、コンセンサスを得て、この計画を進めているところでございます。特に活性化支援策として、岐阜県地域鉄道経営安定化事業費補助金ということで、令和3年度からスタートしておりますけれども、旅客事業の増加を、何とかコロナ禍の減少から回復したいということで、企画列車にまつわる経費でありますとか、車両の装飾、改修、鉄道イベント等々を応援すると。

それから令和2年度からスタートしておりますけれども、DX推進事業費補助金というのものも利用してもらいまして、AIオンデマンド交通などの実証実験でありますとか、交通コンシェルジュの導入への調査でありますとか、そうしたことを進めているところであります。そうした中で特に近年話題になりましたのが、2ページ目ではありますが、養老鉄道を上下分離方式、いわゆる公有民営方式に組み替えるということで、平成26年に議論が始まりまして、約3年半の長きにわたって協議が続いたわけでございますが、ようやく合意を経て、平成30年1月から再構築されたということでございます。左側が以前の形でございますが、近鉄の子会社たる養老鉄道が近鉄の保有する施設等を利用して運行するというので、ここにありますように赤字支援を近鉄が被ると、こういう形でありましたが、とてもこれでは続かないと、存続は無理だということになりまして、これを公有民営化に切り替えようということでございます。最終的にたどり着いた結論は、沿線7市町、これには三重県の桑名市さんにも入っていただいておりますが、そういう意味では、県境を跨ぐ問題であったと言えるんですけども、基金を造成して、そして近鉄から施設等を譲渡ないしは貸与を受けて、養老線管理機構というのを作りまして、養老鉄道は運行のみに専念する、側面から国、岐阜県、三重県が設備更新、その他支援をしていくと、こういう形になっておりました。色々紆余曲折ございましたが、県境を越える形の中で、7市町が一致結束してことに当たったということと、三重県さんとも協力しまして、県の調整機能が非常に効果的に働いたということ

がこの結論にたどり着いた原因ではないかと思っております。結果として平成30年度、令和元年度、計画値を上回って順調に推移しておりましたが、コロナ禍で一旦減少しました。これが昨年度にいたりまして、ほぼ計画値の近くまで戻ってきておりまして、これからまた状況を注視していきたいと思っております。

もう一つ新しい課題が出てきておりまして、先ほどの資料には書いていないのですが、愛知県の犬山市から、岐阜県の御嵩町まで続く名鉄の広見線というのがあるんですが、これも慢性的な赤字で、沿線市町から1億円の支援を出しておったんですが、それでももたないということで、国も入りまして向こう3年間で新たに勉強会を作って具体的施策の検討をしようということで、今年2月の法改正に伴う新たな地域公共交通再構築調査事業にこれが国から認められましたので、これを活用して3年かけて次なる対策を打って行こうと、そんなところでございます。

最後に、これは蛇足ではありますが、3ページ目ではありますが、ご案内の通りでありますけれども、中部圏はこのところ急速に交通ネットワークが整備されてきておりまして、まさに大交流時代と言いますか、オールジャパンの言わばロータリーとして大きな役割を果たしていくんじゃないかと思いますが、そういう流れの中で、地域公共交通、これを見据えた対応をしていく必要があるのではないかと、そういう観点から、地域公共交通計画についても、我々としてはよりよくしていきたいと思っております。言わずもがなであります。私どもからしますと令和6年度から8年度にかけて、東海環状自動車道の西回りが貫通いたします。それから福井県さんとの間での中部縦貫自動車道の福井県側が貫通いたします。これがひとつの弾みになって、岐阜県と長野県を結ぶ、中部縦貫自動車道、これも松本高山ビッグブリッジ構想ということで、今、前向きに進めようとしているところでございます。

そしてなんといっても北陸新幹線、金沢敦賀間が間もなく開業ということでございますし、リニア中央新幹線も今進んでいるわけでございますが、私どもはリニア中央新幹線の駅はシームレスな交通アクセスの拠点となるような駅、駅周辺のあり様を検討しているところでございます。そしてこのリニア中央新幹線の岐阜県駅から郡上につながる濃飛横断自動車道であります。今、部分的に進みつつありますが、最大の難所でありました堀越峠道路という郡上に近いところなんです。ここを国が直轄代行でやるということが決まりましたので、あとは時間と予算の問題ということで、これもリニアの開通をにらんで、何とか間に合うように努力していきたいと、これは中々難しいと思っております。ということで、この大交流につながるような地域公共交通のあり方という観点も大事なのかなというように思っております。以上でございます。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございました。続いて川勝静岡県知事お願いいたします。

(川勝静岡県知事)

今回の中部圏知事会議で最初の発言でございますので、まずは三日月知事さんのホスピタリティに心から感謝申し上げます。特にランチの時、松本シェフの素晴らしい料理を堪能いたしました。突然出されました三日月知事さんお手製の鮎ずしの味は逸品でございまして、一生忘れない、これで鮎ずしが好きになったように思っております。それから静岡県は中部圏と同じで焼

物がございまして、家康公が愛されました賤機焼のほか、森山焼とか志戸呂焼というのが静岡県にもございます。

静岡県における地域公共交通の維持と活性化でございますが、次のページを御覧ください。

三点、自動運転の取組が一点目、現在策定中の地域公共交通計画が二点目、三点目が大井川鐵道です。まず、自動運転でございますが、運転手不足や高齢者の移動手段の確保などの地域課題を解決し、持続可能な地域公共交通を実現するため、自動運転の導入に向けた取組を2018年度から進めています。本年度も沼津市の中心市街地、掛川市の郊外、少子高齢化が著しい伊豆半島の松崎町の地域特性が異なる3つ地域におきまして、遠隔監視など、地域実装に向けた実証実験を進めているところであります。実施に際しましては、各地で公共交通機関を運行している交通事業者をはじめ市、町、地域住民、企業、大学と産学官で連携して取り組んでいるところであります。

次のページをお願いいたします。この実証実験におきましては、本県が全国に先駆けてオープンデータ化し、つまり誰でも使えるようにしてございます三次元点群データの技術を活用して、高精度の3Dの仮想空間を作成し運行に使用しております。実験車両は地域のニーズ、道路条件に応じて開発いたしました。レーダーにより周辺地形を把握し、仮想空間と照合しながら走行できますので、道路へのマーカーの設置等は不要であります。2019年度以降、公道での実証実験を繰り返し、技術を蓄積してまいりました。2024年度、来年度を目標に自動運転移動サービスの地域実装を進めてまいります。実証実験で得た知見の他地域への拡大や他分野との連携を進めながら地域公共交通の課題の解決を目指してまいります。

次、第二点目でございますが、地域公共交通計画の策定についてでございます。岐阜県知事さんもおっしゃいましたけれども、本県におきましても全国平均と比べて自家用車への依存度が高い県でございます。高齢者に安心して運転免許を返納していただけるように公共交通を確保していく必要があります。本県では路線バスの運行支援や鉄道の安全対策への支援といった従来の取組に加えまして、新型コロナや物価高騰対策として緊急支援を行ってまいりましたが、依然としてサービス確保が困難な危機に直面しておりますことから、昨年度より県全体の地域公共交通の目指す姿を描き、その実現方法を示す「“ふじのくに”地域公共交通計画」を策定することといたしまして、地域公共交通の「リ・デザイン」も踏まえつつ、今年度末の策定に向けて、鋭意取り組んでいるところであります。

最後になりますが、本年7月の全国知事会においても御紹介いたしました、大井川鐵道本線についてであります。大井川鐵道本線はSL、そしてまた機関車トーマスで有名でございますが、昨年9月の台風15号で極めて大きな被害を被りました。本年10月に約3kmが復旧いたしました。依然として、千頭まで20kmが運休中という厳しい状況です。復旧には多額の費用を要しますことから、本年1月に事業者から単独での復旧は困難である、今後について協議する場を設けてほしいという要望を受けまして、国、沿線市町などとともに、「大井川鐵道本線沿線における公共交通のあり方検討会」を去る3月に立ち上げたところであります。現在、対応策などを検討中でありまして、年度内にとりうる方策などをまとめていきたいと考えております。本県からの取組事例紹介は以上でございます。ありがとうございました。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございました。続いて 大村愛知県知事お願いします。

(大村愛知県知事)

はい、ありがとうございます。それでは私どもの方から申し上げたいと思っております。

まずは愛知県の公共交通の状況でございます。まず資料1ページでございますが、私どもは東京、名古屋、大阪という形でJR東海道新幹線、JR東海の本線がありますし、また名鉄、名古屋鉄道名古屋本線が東西を貫いておりまして、名鉄は民鉄で言いますと、近鉄、東武と並んで延長路線が長いと、名古屋を中心に放射線状に路線を作っているということでございます。そうした社会基盤を確保し利便性を高めていくために、2022年2月にあいち交通ビジョンを作らせていただきました。危機を乗り越え、輝く未来へつなぐあいちの交通を目指すということで進めさせていただいております。

続いてリニア中央新幹線でございますが、資料2ページです。リニア中央新幹線建設促進期成同盟会会長もさせていただきながら、事業の推進に努めているところであり、このリニア開業後、東京・名古屋間が40分となり、名古屋駅までの速達化が図られるということと、名古屋駅のスーパーミナル化と既存鉄道路線の直通運転化・速達化により、名古屋駅からの40分交通圏の拡大ということで、今、取組を進めさせていただいているところでございます。

続いて資料の3ページですが、鉄道ネットワークの維持・充実ということでございまして、一例を挙げますと、JR東海道本線の刈谷駅、トヨタ関係六社の本社があるところでございまして、名古屋駅、金山駅に次いで3番目に乗降客が多い、1日7万人以上が利用いたします。ということですが、駅のホームが、ここに写真がありますように明治時代のホームをそのまま使っておりますので、今にも人が溢れて落ちそうな感じがありましたので、2020年度から駅のホームを国、県、市、JRで組んで事業をやって、ほぼ倍に増やして、拡げて、ホームドアをつけるという事業に今、取り組んでいるところでございます。ということで、そうしたこともしっかりやっていくということでございます。

資料4ページでございますが、鉄道ネットワークの維持・充実、鉄道会社への支援ということですが、地域の鉄道会社は、新型コロナ禍、また物価高、原油高で大変厳しい状況がございます。各県さんも同じだと思いますが、そういう中で、鉄道施設の修繕・設備投資に要する経費の一部を地元市とも協調して補助をしているということもやらせていただいております。

続いて資料の5ページが乗合バスの維持・充実ということでございまして、山間部等の利用が少なくなっている路線もございます。一部路線について、そうした過疎地域の一部路線につきまして、県としても補助を行い、運行の支援をしているということでございます。

それから6ページが地域公共交通の活性化、MaaSでございます。社会実装に向けた取組を2020年度からやらせていただいております。スマホ・タブレット向けのアプリ「マイルート」を活用して今年度は名古屋東部丘陵地域とセントレアを中心とする知多地域で、アプリで購入できるデジタルチケットや各種サービスの充実を図りまして、5カ月間の実証実験をやっており、これは毎年毎年何らかの形でやっておりまして、こうしたモビリティのサービスを社会実装していきたいと思っております。

次に利用促進、7ページですが、これは愛知環状鉄道やリニモという県の出資する第三セクターになります。そうしたものの利用促進をやっておりますが、特に今年は「どうする家康」という大河ドラマでございましたので、ラッピング車両をやったりですね、愛環鉄道とかリニモのラッピング車両をやったり、あとはジブリパークのラッピング車両をやったりということで利用促進を図っているということでございます。

最後に8で、「休み方改革」の取組ということで、「県民の日学校ホリデー」とか「ラーケーション」といった休み方、やはり平日に休みを取っていただくということで②休み方改革マイスター企業認定制度ということで、年休を計画的にたくさん取ってもらうという中小企業さんを認定するという制度を創設しました。認定されているのは、だいたい40%くらい建設業でございまして、若い人の雇用維持・拡大に役立てていただいております。そうしたことも含めて、分散して観光業・交通事業を支えていきたいと思っております。以上です。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございました。続いて、一見三重県知事お願いいたします。

(一見三重県知事)

はい、ありがとうございます。三重県の資料を御覧ください。

まず1ページ目でございますが、左側に三重県の現状と書いてございます。高齢者というのは、他の県と同じだと思えますが、鉄道・バス利用者数が非常に減少しています。三重県はどちらかというと自動車交通が主とした県、多くの県はそういうふうになっているんじゃないかと思えますけれども、もう一つの問題は左下でございますが、観光地、伊勢というのは日本が誇る観光地の一つでございますが、そこでも夜間、タクシーがつかまらないという問題がございます。これもおそらく多くの県で、同じ課題を持っておられると思います。

2ページを御覧ください。2ページの左側を御覧いただきますと、今、三重県でも地域公共交通の計画を作ろうとしておりますが、ここに課題が書いてございます。これはありきたりの課題でございます。これから突っ込んだ議論をしようとしているところでございます。

今日は、まだ紙にできませんので、私の方から口頭でお話を申し上げたいと思います。1ページに戻っていただきまして、1ページの右、見ていただければ、ここに3つ課題が書いてありますけれども、今三重県が取り組もうとしている課題、これは、交通というのは地域によって様々な課題があって、一口では話ができない、解決策も中々出てこないとは言われますけれども、おそらく類型化するとこういう問題になってくるのだらうと思います。上から2番目、まず鉄道、これが維持できるのかどうかというのが大きな課題でございます。日本全体で人口が減っておりますので、将来的にすべての鉄道を維持していくのはおそらく無理なんだろうと思っております。そうすると論点として、本当に鉄道が必要なのか、これは基礎自治体の首長含めて、あるいは知事を含めてなかなか言いにくいところがありますけれども、しっかりと議論していかなければいけない。逆に言うと、コストをどう負担するのか、そういう意味では、三日月知事のやっておられる滋賀県の取組というのは非常に参考になりますし、さらに富山県でやられたJR富山港線を富山ライトレールに転換をされた、これは非常に各県にとって参考になることだと思っております。それから1ペー

ジ目の上でございます。これは一番の問題でございます。免許返納したくても免許返納できない、90歳になっても車を運転しなければいけないという人がたくさんおります。どうやってその人たちに公共交通を提供するのかというのがポイントでございます。三重県内のある市長さんは「もうやるやる詐欺はやめました。公共交通やりますやります。」とってコミュニティバスを走らせます。でも不便です。やがて人が乗らなくなって、路線がなくなりました。これからしっかりと議論してどういうニーズがあるのか膝詰めで議論しようということで、その市では各自治会に入って行って、市長と市の職員が議論を今しています。我々も、県職員も一緒に連れて行かせてくれと言って、三重県ではこの4月に地域公共交通を専門に担う課をつくりました。そこの職員が行って、議論しているところでございます。その答えをやがて出さないとけないということになっていますが、課題は様々でございます。どう対応していくか。更にもう一つ申し上げると、今、三重県では人口減少対策に対しての方針というのを、8月2日につくりました。おそらく日本の自治体、都道府県で初めてだと思えますけれども、今、若年層の女性等、多くの方が三重県から出ていってしまって、何で出て行きますかっていう議論をしているところです。9月21日、第一回目会議をやりまして、第二回目が今日でございます。この後ちょっと途中で抜けさせていただきますけれども、webで女性の方々と議論しますけれども、第一回を9月21日にやった時にはですね、公共交通が不便だから、三重県に残るのはいかにかなものかという声がございました。従いまして、公共交通をしっかりと考えていくということは、人口還流、Uターン、あるいは三重県に残ってもらう、それに大きな意味があるのではないかと考えています。公共交通に関しては、鉄道でできることは鉄道で良い。鉄道でダメならどうするか、路線バスに変えていくのだろう、路線バスがダメならどうするか、コミュニティバスとかデマンドバスに変えていくだろう、コミュニティバス、デマンドバスがダメならどうするか、乗り合いタクシーに変えていくんだろう、乗り合いタクシーがダメならどうするのか、ボランティア輸送に変えざるを得ない。おそらく最後の形はボランティア輸送なんです。これをしっかりと基礎自治体の皆さんにわかっていたいただいて、どういう形で交通システムが維持できるかということをやっていかなければいけない。かつ、それぞれのモードで自動運転というのが入ってくると思います。2ページの右側を見てくださいと、自動運転の取組、かなりの進捗で進んでおります。実は4年前に自動車局長をやっておりましたときに、自動運転がここまで進むとは思っておりませんでした。これは取り入れる価値が十分あると思いますので、私どもも今研究をしているところです。

最後に経費の節減をしていくということについて、今申し上げたような鉄道、バス、乗合タクシー、ボランティア輸送というふうに変わっていくものでありますけれども、やはり財源の確保が大きな問題になります。それぞれの局面で多寡はあるにしてもやはり財源が必要でございます。これについては、三日月知事に冒頭に御説明していただいた、そういう議論を我々もやっていかなきゃいけないなと思っております。以上でございます。

(三日月滋賀県知事)

はい、ありがとうございます。河村名古屋市長お願いいたします。

(河村名古屋市長)

はい。それでは名古屋でございます。

まず1ページ目ですが、地域公共交通協議会というのを設立したところとございます。それから2枚目とございますが、名古屋市の一部で、公共交通空白地というのがありまして、なかなかバスが行けない、なのでどういうふうにしたらよいかということで、AIオンデマンドを活用したり、まだ決まっておらんけれども、タクシーとバスの間のようなことの検討を行っている。それから次のページの、これは珍しいんですけども、ガイドウェイバスが大曾根から守山まで走っており、ちょうど道路の中央に何やらコンクリートの造形物が、万里の長城みたいなのが続いております。これ実は世界でどうも名古屋にしかないんですよ。地下鉄でなく、地下鉄のようなものを作ろうということでやり始めたんですが、実際のところ、バスが特殊だという事情もあります。インドネシアのジャカルタに行ったときに、ジャカルタは中央走行のバスみたいなものがあるんです。で、怒られたんですよ。「名古屋がこれを作ったんで、やろうと思ったけど、他に普及していかない。どうなっとる」って。ということで国の金も取っておりますが、実は財政危機というのは嘘なんで、ものすごい金あるんで、高架区間が途中までで、6.8kmで止まっとるけど、一番奥の高蔵寺まで行けど。バスも、普通のバスを走らせればいい、ということは今言っております。バスの開業が何年遅れになっとるか、やっとるやっとるって言ったって行ったのか工場へと。返事はありませんでしたけれども。という状況とございます。せっかく作ったガイドウェイバスなんで、ここはもう途中でやめることなくそのまま、地下鉄に代わるような、地上の地下鉄のようなものなので便利は便利ですよ、そりゃ真ん中を通っていきますので。是非やりたい、そのように思っております。

それとその前に、自動運転ができるのではないかと、ある意味では当たり前ですけども、専用のレーンを走っておりますんで、そうすると自動運転化は日本で初めてということで、バスです、完全自動運転ということになりますんで、早くそれもやろうと言っていました、はよやるはよやると言って2、3年か4、5年か経ってしまったということとございます。以上です。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございます。続いて 中村福井県副知事お願いします。

(中村福井県副知事)

はい、ありがとうございます。まずは三日月知事をはじめ大村会長、それから中部圏知事会議の開催に御尽力をいただいた皆様、また本当に素晴らしいテーマをいただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。

それでは、私の方から、資料に基づき説明をさせていただきます。

まずは、1ページ目になりますが、地域公共交通の維持・活性化について、本県がどのような取組をしているかについて御説明をいたします。福井県は来年の3月16日に北陸新幹線福井敦賀開業を予定しております、その経済効果が年間300億円以上、それから首都圏、関西圏から入込の客数は78万5千人くらい増加すると見込まれております。このような中、本県では県と市町が連携して、県内の地域鉄道であります、えちぜん鉄道と福井鉄道を再構築するために様々な支援を

いたしまして、沿線人口が減少していく中でも利用者を増やして、地域不可欠な交通インフラとして再生しつつあるというような状態でございます。最近では利用者である県民に対しても公共交通の利用を促進するという、後ほど説明いたします様々な取組をしております。

まずは新幹線の開業効果を地域全体に波及させるということで、新幹線の駅、4駅できますけれども、そこから観光地などへの二次交通をしっかりと充実させていく、それから観光需要を効果的に取り込むことで、その地域鉄道の経営に対する強化を図り、今後の地域公共交通の維持・活性化を目指そうと目論んでおるわけでございます。

順次、御説明をさせていただきます。次のページになります。

まず鉄道再構築でございますが、県はえちぜん鉄道、福井鉄道のダイヤの充実、それからパーク&ライドの駐車場の整備、需要を獲得するために新しい駅をつくる。それからえちぜん鉄道と福井鉄道で一部、相互乗り入れをしております。沿線市町とともにこの4つにつきまして、様々支援をしてまいりました。結果、コロナ禍の前までは、沿線人口が減少するなかでも、利用者を増加させることができまして、何とか今のところ交通インフラを維持できている状況でございます。これは、我々の相当な支援がなければもちろんできないわけでございます。ただ、コロナで需要の減少がありました。それから電気料が高くなっています。そういうことで事業者の経営状況がさらに厳しくなってきましたので、今後も継続した支援が必要であります。特に人材不足が深刻化しておりまして、ここでも県と沿線の市と連携して迅速に人材支援を開始いたしました。8月には、運転士がいなくて、減便をするというような発表がありまして地域住民が大変ショックを受けたのですが、これも今の人手不足、人材不足からはやむを得ないということで、県市それぞれで、補正予算でその確保策を支援したわけでございます。

また、滋賀県とは、去年の知事懇談会を受けまして地域鉄道の維持・活性化について意見交換をする勉強会を開催させていただいており、それぞれの取組や施策を共有しております。

次の3ページになります。県民への地域公共交通の利用促進として、昨年11月ですが、最近ガソリン関係が高く、電車通勤を促進させるチャンスだということで、「ナッジ」を活用した鉄道利用のPRを実施しております。例を出しておりますが、少し金額も入れまして、知らないうちに八万一千四百六十円、どうだこうだという話も入れまして、住民の方々に訴えるような形で広告をしております。電車通勤によって生まれる時間とお金、これがどのようなメリットになるかと、このような発信をいたしました。二週間で三千人を超えるという閲覧がありまして、分かりやすいという評価もいただいて、SNSだとか鉄道系のYouTuberだとか、ネットニュース、いろいろなところで取り上げられ話題になったところでございます。えちぜん鉄道、福井鉄道の通勤定期の利用者はコロナ前を上回って推移をしております。これは企業にも積極的に働きかけをしてできるだけ通勤を変えてほしいと商工会議所などに積極的に行っております。また、県庁の若手チームが作った公共交通を楽しく遊ぶカードゲームも作りまして、色んなイベントの時に、地域住民に鉄道ファン、もしくは鉄道への親しみを作ってもらうという取組をいたしております。

最後に4ページになります。北陸新幹線福井敦賀開業の効果を波及させるための二次交通の充実ということで、バスにつきましては、新幹線の各駅から観光地を巡る、着地型観光バス、はぴバスと言っておりますが、これを何種類か作りまして、それから観光地の間を結ぶ直行バス、一例ですけれども、あわら温泉と恐竜博物館を結ぶ、あわら恐竜号というのを運行していただいております。

ますが、これに対して県から支援を行う、それからタクシーにつきましては定額タクシーを運行してありまして、これは今、あわら市と越前市でやっておりますが、これもいくつかの市町が興味を示しまして、拡大していく予定でございます。それから、新幹線駅を発着する路線バス全車両に交通系のICカード、決済端末の導入、タクシーには配車アプリ、キャッシュレス端末の導入を支援するなど、交通のDX化を進めております。

それから最新の映像技術を使ったXRバスがありまして、車内が臨場感のある映画館になるような仕組みでありまして、我々、観光地まで距離が遠いので、その間も楽しんでいただくという試みです。同じようなことを恐竜電車ということで、いろいろ知恵を絞って、お客さんを飽きさせない、エンターテインメントを作り上げていこうと、今しております。このように新幹線効果を効率的に取り込むことで、地域公共交通事業者の経営体質強化を図っていただいて、地域公共交通の維持・活性化、それがひいては住民の日常生活に必要な足の確保ということに結びつけようとしているところでございます。私からは以上でございます。

(三日月滋賀県知事)

ありがとうございました。最後になりましたけれども、関長野県副知事よろしく申し上げます。

(関長野県副知事)

はい。それでは私からも、三日月知事はじめ滋賀県の皆様には今回、知事会議の設営をいただきまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

それでは、長野県の交通の状況について、ご紹介させていただきます。2枚目でございますが、既に他の県の皆さんからも御発言がありましたように、コロナの影響が大きく表れています。特に鉄道につきましてはコロナ前に比べて9割くらい、バスについては7割くらい、タクシーについても7割くらいということで、厳しい状況にあります。公共交通として、このまま維持をしていくのは非常に困難な状況にきているとの厳しい認識ということで、この下にあります。私ども、今年度スタートの県の新たな総合計画で、宇沢弘文さんの提唱されていた社会的共通資本という位置づけを大きく取り入れております。そういった意味では、公共交通は社会的共通資本の最たるものということで、この4月には交通政策局を発足させました。また、その計画の主なプロジェクトの一つに、「県内移動の利便性向上プロジェクト」を位置付けたところであります。また併せて、持続可能で最適な地域公共交通の構築に向けた検討を進めるということで、公共交通活性化協議会を行っていくこととしています。

3ページ目を御覧いただきたいと思っております。先ほど申し上げました新時代創造プロジェクトの中のリーディングアクションとありますが、中ほどにございますが、これまで以上に行政が関わる仕組みに転換する必要があるだろうという考え方で、大きな不便を感じることなく、高齢者や高校生など、こういったところを念頭に日常生活を送ることができる状態を作ろうとしております。

次のページを御覧いただきたいと思っております。公共交通の活性化協議会でありますけれども、長野県は非常に広い県なものですから、全体としての取りまとめをすることと同時に、10のブロックごとに現在議論を展開しているところであります。全体のとりまとめにつきましては、今年度、

令和5年度中の策定に向けて作業を行っております。これまで地域公共交通に県として関わりが低かったのではないかと問題認識のもとで新たな支援の仕方をこの場で検討しているところがあります。また、もう一点の地域別に行っております部会ですが、それぞれ鉄道に加えてバスをどう位置付けていくかということも市町村のコミュニティバス等での対応だけでは限界がきているかと思っております。そういった意味では幹線となるバス路線と地域とをどうつなげていくかという議論を含め、地域の議論を活発にすることによって最適な交通ネットワークを構築しようということで、今やっているところでもあります。

それから次の最終ページを御覧いただきたいと思いますが、これまで行われてきた取組の中で参考にさせていただければということで、記載させていただいております。先ほど来、公設民営、上下分離等、鉄道の維持についてのお話がありました。私どもでは、令和元年の東日本台風災害で上田電鉄別所線という私鉄ですが、橋梁が被害を受けました。この際、このまま再建するのは難しいということで、一部分を公有化して国庫補助金を活用し、交付税措置のある起債も活用可能であったものですから、実質的に地元負担を大きく減少させたうえで復活することができました。そうした意味で、路線全体でこうした形でやっていくことも必要だと思っておりますが、一部の公有化を組み合わせながら、実際に早期の復旧につなげられるということも可能かと思っております。

事例の2であります。しなの鉄道という、並行在来線の全国でも第1号となりましたが、この鉄道においても、非常に厳しい経営環境が続いています。駅舎の活用という観点で御紹介をさせていただきましたが、近くの郵便局で老朽化しているところを、新しく駅舎を建てて入居をしていただくということで、これによりサービスを向上することができますし、また、施設についても有効な活用ができるということで、取り組ませていただいております。これはこれからの建て替えになりますけれども、切符の販売などの駅業務も郵便局で行っていただくことが可能になりますし、駅の活用については複合的な拠点になるような取組を進めていければと思っております。

またここには記載してございませんが、しなの鉄道については、特にシェアサイクルを駅からの交通手段として活用しようということで、現在、長野、千曲、上田でシェアサイクルを駅とその周辺に整備し、なるべく鉄道を使って、その後移動が楽なようにということで、利用促進につながるようなことを行っております。長野県の紹介は以上であります。

#### (三日月滋賀県知事)

ありがとうございました。

それぞれの県市において悩みとともに様々な取組事例を御紹介いただきまして、いくつか、色んな真似したいことや聞きたい事あるんじゃないかなと思います。ここで意見交換をと言われていたのですが、すみません、座長の不手際で意見交換の時間がないんですけれども、どうしても聞いてみたい、言いたいということ、何かおありでしたら、受け付けたいですけれども。

一見知事、どうぞ。

#### (一見三重県知事)

ありがとうございます。

長野県さんにお伺いしたいのですが、この4月から交通政策局をお作りになられたということ、

非常に敬意を表するところでございます。交通行政というのは、おそらく運輸行政がしっかりと体系的にやっていなかったというところもあるのかと思うんですけども、県があんまり噛んでないんですよ。地方の運輸局、それから運輸支局、それとあと基礎自治体はやむにやまれずやっているんですけども、県の関与が非常に少ないと私も県知事になって思いました。それで、実は私ども課を作ったんですけども、長野県さんはちなみにこの交通政策局の中にいくつくらいの課レベルの組織があるか教えていただけませんか。

(関長野県知事)

はい、よろしいでしょうか。

我々、松本空港も取り扱っておりますので、その課と、地域の公共交通を扱う課と2課で運用しております。あともう一つ、先ほど申し上げたように10のブロック、地域振興局という現地機関がありますので、現地機関にも交通担当をおいて明確に地域のビジョンに取り組めるような体制としております。

(三日月滋賀県知事)

はい、ありがとうございます。どうぞ、川勝知事。

(川勝静岡県知事)

一言だけ、静岡県は昔、建設部というのがあったんですが、それを2010年に交通基盤部として、もう14年になります。

(三日月滋賀県知事)

そうですね、そういう組織名から様々、変えていくというのも大事ですね。

ほかございますか。よろしゅうございますか。(特になし！)

はい、大きな声でありがとうございます。

それでしたらここで、せっかくみんなで議論し、皆で出し合いましたので、この宣言を取りまとめるはどうかということで、お手元に人々の交流と地域の活性化を支える地域公共交通の維持・活性化に関する宣言というものの案をお配りしておりますが、なにかこれについて、あらかじめ事務的にはお諮りをしているところがございますが、御意見等ございますでしょうか。(異議なし)

はいありがとうございます。

それではこの宣言を、中部圏知事会議、第119回で取りまとめたということについて、案を抹消し、発信させていただくことといたします。

続いて議事4「その他」に入らせていただきます。各県市からのPR事項をいただこうと思っておりますが、今回は資料のデータ配布で御紹介にかえさせていただき、口頭での御説明は省略とさせていただきますと存じます。それぞれのデータは、お手元のパソコンに保存・共有をさせていただいておりますので、御確認をお願いしたいと存じます。

それでは最後になりましたけれども、来年春に中部圏知事会議を開催していただく、第120回の記念会議であります。申し合わせにより石川県ということでございますので、馳石川県知事が

ら御挨拶をいただきたいと思います。

(馳石川県知事)

まずは、滋賀県の三日月大造知事をはじめ、滋賀県担当者の皆様には、御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。鮎ずしは、もっと酸っぱいかと思って嫌だったのですが、今日食べたのは最高に美味しかったですね。本当に感動しました。ありがとうございました。

さて、来年は石川県でさせていただきますが、来年3月16日いよいよ50年間福井県が待ちに待っておりました、北陸新幹線敦賀開業となります。北陸三県は実は新幹線で、県庁所在地が1時間で結ばれるということで昨今も石川・福井・富山連携して様々な事業にも取り組んでいるところであり、感謝申し上げます。

ちょっと紹介しますが、実は来年2024年は、静岡県に引き継いで、東アジア文化都市会議を来年1月1日から1年間行わせていただきますし、また今年の国民文化祭、石川県ですが、来年は岐阜県で開催をされるということで、一年早く譲っていただいた岐阜県に改めて感謝申し上げますとともに、この機会に文化安全保障という考え方で、安全保障には軍事も経済も人間の安全保障もございしますが、我々、文化の安全保障で地域間の緊張感を和らげていく、そういったことを発信する場にしたいと思っています。

またもう一つ御礼は、今年も実は5月5日に珠洲の奥能登地震がございました。7月12日から線状降水帯の被害がございまして、中部圏知事の皆さんには心配のお電話をいただいたり、サポートいただいて本当にありがとうございました。

そういう観点でも、われわれは地政学的にも我が国日本のど真ん中にございまして、万が一何かあった時に我が国が機能しなくなるようなことがあってはなりませんし、お互いバックアップ機能を持つことと、一つは普段からこうやってお会いしてお話しして、情報共有することが大切だと思っておりますので、鮎ずしに負けないようなおもてなしを私もがんばりたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

<拍手>

(三日月滋賀県知事)

どうぞよろしく願いいたします。

以上で、第119回の中中部圏知事会議を終了させていただきます。

なお皆様方のお席の前にお城の模型がありまして、これ、この地域にあると勘違いされていると困りますので、最後に御紹介いたしますと、滋賀県が今推しております国宝、世界遺産を目指しております彦根城でございまして、大学生にブロックで作っていただいて、今PRをしているところでございます。それぞれの地域にお城もあると思いますが、ぜひお城文化もみんなで発信していきたいと存じます。

皆様の御協力に感謝申し上げます、以上にて座長の任を解かせていただきます。みなさんどうもありがとうございました。